

令和7年度第1回 米子市廃棄物減量等推進審議会概要

日 時 令和7年5月23日(金) 14:00から

場 所 米子市役所 本庁舎5階 議会第2会議室

1 出席者

(1)委員 (敬称略、順不同)

飯塚 舜介(会長)、尾崎 米厚(副会長)、仲田 雅彦、矢末 誠、松本 眞、吉田 みつ、
竹谷 正一、宇田川 和花菜、柴田 真由美、田部 美穂、
(欠席:小川 和郎、伊澤 耕二、川上 眞由美、谷本 恵美)

(2)事務局

橋尾市民生活部長、高浦クリーン推進課長、池口クリーン推進課長補佐、
森生活環境担当課長補佐、清水クリーン推進課主任

2 傍聴者 0 名

3 議事概要

(1) 米子市一般廃棄物処理基本計画の改定について

～事務局説明～

【A 委員】

資料 1-4 の 3 ページ、4-1 で、ごみの収集袋について△となっているが、ごみ袋の使用を減らすことができたのであれば○でよいのではないか。目標がバイオマスプラスチック袋の導入というところまで想定しているなら△でも良いと思ったがいかがか。

【事務局】

第 4 次一般廃棄物処理基本計画の中で、バイオマスプラスチック導入を目指すという目標を設定していたが、コスト面、安定的な原材料の供給等の理由で導入に至ってないため△にした。

【A 委員】

資料の 1-5 の 22 ページ。「さんあ～る」のアプリを使っていて、非常に使い勝手が良く、参考にしている。しかし、アンケートの結果を見ると、全体的に知られておらず、特に若い世代の方が知らないという回答が多い。もう少しうまく PR すれば効果が期待できると感じている。次の計画に、何かアプリの普及等を検討していただけたらと思う。

【B 委員】

資料 1-3、資料 1-6 にごみ処理に係る収支のことが書いてあり、様々な要因で経費が増え、収入が減っているのは理解できるが、このままいくと米子市の負担が増えると考えられる。具体的に経費や収入の目標額があるか聞きたい。

【事務局】

具体的な目標はない。経費でいうと、例えば収集運搬、クリーンセンター運転の委託料の増加、また人件費、原材料、燃料費も右肩上がりの状況である。収入については、ごみの焼却による発電を売電しているが、ごみ量の減少等によって発電量が減ってきている。ごみ量が減るのはごみ処理行政においては良いことではあるが、収入の面から考えると、手数料もそれに比例して減ってくる。収支

改善について、できることを何とかやっていきたいと考えている。

【会長】

発電による売電収入のところが減っている。これは売電量が減っているのか、それとも令和4年にかなり減っているが、売却先を変更されたのか説明をしていただきたい。

【事務局】

電気の固定価格買取制度が終了し買取単価が下がり、発電量も下がっている。クリーンセンターには3炉あり、通常2炉運転を行いながら発電をしているが、最近はおみ量が減り、1炉運転を行っているときもある。1炉運転になると発電量がかなり下がり、売電の量が減ってしまう。おみ量が減るのはいいことではあるが、収入が下がってしまう面もある。

【C 委員】

福祉施設の施設内にゴミ置き場を作り、ヘルパーに持出ししてもらい、それを回収するという仕組みができたということだが、実際に福祉施設で手を挙げたところがあるか。

【事務局】

事業者(福祉施設)については、福祉保健部門と調整をし、設置に向けて協議を進めており、自治会長の会議でもお話をさせていただいた。今後は、事業者の希望があれば、置き場を設置して回収する仕組みを構築していく準備を進めている。

【C 委員】

スーパーとか資源物引取拠点に出したゴミの、その後の経路というのはどうなっているか。

【事務局】

スーパー等で回収された、例えば、発泡スチロールトレイは、業者が一度持って帰り、再資源化して再利用されていると伺っている。店頭回収のものは焼却処分ではなく、もう一度原材料に戻されて、トレイとして使われている。

【会長】

色つきトレイは米子市では回収はできないが、何とかならないかという意見があったがどうなったか。

【事務局】

米子市の回収については、市内に色つきトレイを再資源化する施設がないため、白色トレイのみの回収としている。

【D 委員】

資料1-2の4ページについて、産業によって、ゴミのパーセンテージは変わるのか。

【事務局】

例えば宿泊業が多くなると、宿泊客の食べ残し等が事業系の一般廃棄物となり、食品残渣等が多くなる。

【会長】

資料1-5のアンケートの回答者について、年代別の回答数、回答割合は書いてあるが、各年代別の回収率が書いてない。議論をする場合の参考となるが、年代別の回収率がわかるか。

【事務局】

年代別の回答率を算出しているので、改めて皆さんにお示しする。

【E 委員】

資料 1-6 について、家庭系ごみ、集団回収と事業系ごみを足すと総排出量になる。「家庭系ごみ(資源物以外)」は、「家庭系ごみ+集団回収」の内訳であるが、その差は集団回収と資源物量なのか。また、集団回収とはどんな意味なのか、事業系ごみというのはどういうものか。

【事務局】

産業廃棄物以外のものは一般廃棄物と定められており、例えば事業所から排出される、食品残渣、職員の食べ残し、紙類、使用済みの紙おむつ等が事業系の一般廃棄物に該当する。資料 1-6(2)の表の差は、資源物である。資源物の中でも古紙類は民間の業者も回収していることから、把握が難しいところもある。

【E 委員】

資料 1-6 について、米子市は、類似自治体に比べて事業系ごみが多いため、もっと事業系ごみに切り込んでいく必要があると思う。そのあたりがもう少し計画にも盛り込まれてもよいと思う。

【事務局】

事業系ごみの適正処理についてパンフレットを作り、事業系の一般廃棄物が出やすい事業所に郵送している。排出量が多い事業所には、ごみの減量化や資源化の協力依頼を行っている。引き続き、事業系ごみの対策を進めていきたい。また集団回収とは、自治会や学校の PTA 等が資源物を回収していた取組のことである。

【E 委員】

米子市は資源物が少ないということか。

【事務局】

ここから読み取るとそのとおりである。集団回収を行う学校や自治会に対し補助金を出していたが、2 年前に廃止したため、集団回収が少なくなっていると思われる。

【C 委員】

資料 1-5 の関連で、自治会の加入率が下がってきている。米子市は自治会で管理しているごみステーションがほとんどだと思う。自治会から脱退した場合、ごみステーションを使えないということがあちこちで起きているが、クリーン推進課で何か対応したり、あるいは問い合わせ等あるか。

【事務局】

自治会未加入の方のごみ出しの対応は、原則、自治会に相談いただくように伝えている。それ以外の方法としてクリーンセンターへの直接搬入、許可業者への回収依頼を案内している。

(2) し尿処理手数料の改定について

～事務局説明～

【F 委員】

今年の春闘でも賃上げがあったようだ。それを踏まえた、し尿の手数料の改定も必要ではないか。

【G 委員】

し尿の関係も、経費が増えたり、人件費が増えたりしている。支出を減らすのは、いろんなものが上がっているので難しい。今後、何か新しい収入を考えていかないとバランスがうまく取れないのでは。

【会長】

し尿の手数料は市で決まっているが、浄化槽の手数料は自由競争なのか。

【事務局】

し尿については米子市の業務として行っているため、条例で手数料を定めている。また、廃棄物処理法の中で、条例を超えて料金を徴収してはならないと定められているため、事業者は米子市の決めた料金でやっている。浄化槽汚泥は米子市の業務として行っていないため、条例として手数料を設けることができない。よって、業者が各社で料金設定をしている。

(3) その他

【会長】

議題は以上となるが、その他何かあるか。

【事務局】

特になし。次回の開催については、おって案内させてもらう。

以上